

# 令和4年度北海道教育大学札幌校教員養成課程 編入学入試試験問題

## 言語・社会教育専攻 国語教育分野

### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題紙を開かないこと。
- 2 問題紙は表紙を含めて7枚あります。
- 3 問題は問題一から問題六まであります。すべての問題に解答すること。
- 4 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 5 受験番号は指定された欄すべてに記入すること。
- 6 解答は縦書きとし、指定された字数にまとめるここと。句読点や括弧記号等も、一字一分とします。
- 7 試験終了後、問題紙すべてを提出すること。
- 8 試験中に問題紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

得点 ( ) / 300

問題一 次の各問い合わせ下さい。（合計 70 点）

問一 次の熟語の読み方をひらがなで書きなさい。（各 2 点 × 10 問、合計 20 点）

- ① 挨拶 ② 恫持 ③ 憊羨 ④ 長閑 ⑤ 咽ぶ  
⑥ 反駁 ⑦ 満刺 ⑧ 故度 ⑨ 知悉 ⑩ 法度

【解答欄】

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問二 次の一重傍線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。（各 2 点 × 10 問、合計 20 点）

- ① 今日の父はキゲンがよい。  
② 故人をシタう。  
③ 産業をオコす。  
④ 危険な実験をカンコウする。  
⑤ 彼はシンギに厚い人物だ。  
⑥ 各国公使を招いたコウカン会が開かれる。  
⑦ 収入のルイケイ額を求める。  
⑧ 筆者は文章のスイコウを重ねた。  
⑨ 仲間からシガイされ孤立する。  
⑩ 物価がトウキする。

【解答欄】

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

令和四年度北海道教育大学札幌校教員養成課程 編入学入試試験問題（言語・社会教育専攻 国語教育分野）  
(2/6) 受験番号 ( )

問二 次の慣用表現の漢字の誤りを正しい漢字に直して、全体を書きなさい。ただし、誤りがない場合は○を書きなさい。また、それぞれの慣用表現の意味を書きなさい。（各3点×10問、合計30点）

- ① 機が置けない ② 瓢箪から独樂が出る ③ 合縁奇縁  
④ 泡を食う ⑤ 枝葉未説

【解答欄】

（正しく書き直す。誤りがない場合は○を書く。）

- ① ② ③  
④ ⑤

（意味を書く。）

- ① ② ③ ④ ⑤

問題二 次の一重傍線部について文法的に説明しなさい。品詞、活用の種類、活用形、意味用法などを、できるだけ詳しく書くこと。（各6点×5問、合計30点）

- ① 将来は教師になりたい。  
② きれいに片付ける。  
③ 叫んでも返事がなかつた。  
④ 彼は作家でもある。  
⑤ お茶でも飲もう。

【解答欄】

- ① ② ③ ④ ⑤

問題三 次の①～⑤に答えなさい。（各6点×5問、合計30点）

- ① 横光利一、川端康成に代表される文学者のグループは何派と呼ばれるか、その一般的な名称を漢字で書きなさい。
- ② 「内海文三」を主人公とする小説で、一葉亭四迷の代表作である言文一致体の作品の名称を書きなさい。
- ③ 詩集『春と修羅』の作者の氏名を漢字で書きなさい。
- ④ 写生主義、万葉調による短歌の革新を唱えた歌人の氏名を漢字で書きなさい。
- ⑤ 『アイヌ神譜集』の編訳者である、北海道出身のアイヌ女性の氏名を漢字で書きなさい。

【解答欄】

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

問題四 次の文章を、一四〇字以上一八〇字以内で要約して書きなさい。（70点）

「家庭で自然に身についた文化資本」と「学校で努力して身についた文化資本」では、ありようがまるで違う。

そんなことはない、芸術作品の鑑賞能力のよいうがものは「教養ある家庭で非常に早い時期から正統文化に触れる機会をもちえた」場合と、成長したあとに学校教育で学んだ場合でも、「よいものはよい」とする判断に違いが出るはずはない、とおっしゃる方がいるかもしれない。

しかし、残念ながら、個々の芸術作品の「よしあし」の判断にはそれほどの差はなくとも、芸術作品を「享受」するときの態度にははつきりとした違いが生じるのである。

育った環境で自然に身についた芸術鑑賞眼の持ち主には「余裕」があるものである。「そうとは感じられぬうちに早期からはじまり、ごく幼い時期から家庭で行われる体験的習得」を通じて芸術鑑賞の能力を身につけたものと、遅くからはじまり、系統的に加速された習得形態」を通じて同じ能力を身につけたものでは、作品を前にしたときの「ゆとり」に差が出るのである。

（註）ブルデューはいささか底意地の悪い筆致でこう書いている。

「この第一の習得形態は、文化的正統性を手にしているという確信にともなう自信と、優秀性と同一視されるゆとりを与えてくれる。そして（相対的な）無知状態に安住する余裕と、古い家柄のブルジョワが文化に対して抱いている親しみ深さ（それは彼らがその正統な相続者をもつて任じている家族財産のようなものである）に宿る屈託のなさから成る」

「家庭」で習得した文化資本と、「学校」で習得した文化資本の差はこの「ゆとり」、あるいは「屈託のなさ」のうちにある。その「ゆとり」は何よりもまず「無防備」というかたちを取る。

芸術作品を前にして「ほわん」としていられるこそ、この余裕が「育ちの良さ」の刻印なのである。

（次に続く）

## (問題四の文章の続き)

「学歴による文化貴族」が決して口にできないのは「知らない」という言葉である。「知らない」という告白が、その人が「ほんらい所属する階層」を暴露してしまうことを恐れるからである。

一方、家庭で文化資本を身体化させてきた「血統による文化貴族」は、平然と「知らない」と言うことができる。なぜなら、その人にとつて、芸術作品についての鑑賞眼は、一度として努力して「獲得すべきもの」として意識されたことがないからである。彼にとつて、芸術作品は「好き」か「嫌い」か、「ほしい」か「ほしくない」かという皮膚感覚レベルで享受されるものである。だから、ある初見の(絵)タブローについて、印象を問われても、その年代や流派や技法や市場価値についての「一般知識」を参照するまじめに、感覚に基づいて、その「良否」を「あ、これ好き」とか「こんなのが、要らない」とか断定的に言うことができる。

ブルデューの卓抜な喻えを借りて言えば、「血統による文化貴族」は自分の観た映画に出てきた俳優の役名を記憶し、「学校による文化貴族」は自分が飼ったことのない映画の監督の名前を記憶する。前者は「経験」をたいせつにし、後者は「知識」を「絵」に優先させる。「作品そのものを熟視することをおろそかにしても作品について語ることを優先させ、感覚を犠牲にしても訓練を重んじる」と、それが、「学校による文化貴族」の「馬脚」なのである。(中略)

繰り返し言ふが、親しみの深さや享受のあり方の違いは、判定の当否にはかかわらない。熟視と感覚に基づいて「絵」を語る人間が、自己訓練を通じて獲得された「知識」を語る人間よりもつねに正しい判定をするということはない。しかし、「知識」を語る人間が「絵」を語る人間にに対してつねにある種の「気後れ」を覚えることは事実である。そんなことを意図しないで、自然にふるまつている人間に「気圧される」と、自分の感覚や判断に迷いを感じてしまうこと、自分がどこかで「いたはならない場所に踏み込んだ」ような異郷感を覚えてしまうこと、この微妙な「場違い」感のうちに文化資本の差異は棲まっている。

(内田樹『街場の現代思想』(文春文庫) 文藝春秋、一〇〇八年より。一部改変。)

注 1 ブルデュー……フランスの社会学者。

2 タブロー……絵画作品。

【解答欄】


問題五 次の『紫式部日記』の一節を読んで、後の間に答えて下さい。（合計 50 点）

①内裏のうへの、源氏の物語人に読ませたまひつつ聞こしめしけるに、「②トリの人は日本紀をこそ読みたるべけれ。まトリに才あるべし」と、のたまはせけるを、(准2)ふと推しあかりに、「いみじうなむ才がある」と、殿上人などにいひ散らして、日本紀の御局とぞつけたりける、③いとをかしくぞはぐる。このふる里の女の前にてだに、つつみはぐるものを、さるじころにて才さかし出ではべらむよ。

(准2)この式部の丞といふ人の、童にて④書読みはべりし時、聞きならひつつ、かの人はおそらう読みどり、忘るるじころをも、あやしきまでぞわんくはべりしかば、書に心入れたる親は、「⑤口惜しう、男子にて持たらぬこそ幸ひなかりけれ」とぞ、つねに嘆かれはべりし。

それを、「をのこだに才がありぬる人は、いかにぞや、はなやかならずのみはぐるめるよ」と、やうやう人のいふも聞きとめて後、⑥一といふ文字をたに書きわたしへべらず、いとてづつに、あさましくはべり。

注 1 ふと推しあかりに……その場にいた左衛門の内侍が、やじ当て推量に。

2 トリの式部の丞といふ人……この文章の著者の弟。

問一 傍線部①・②の人物は、それぞれ誰であると考えられていますか。漢字で書きなさい。

（各 4 点 × 2 間、合計 8 点）

【解答欄】 ① ②

問二 傍線部③を品詞分解しなさい。単語ごとに横線を入れ、右横に、品詞と、用言の場合は活用の種類、付属語の場合は意味、活用語の場合は活用形も、それぞれ書きなさい。（8 点）

【解答欄】

い と を か し く ぞ は べ る

問三 傍線部④は何を意味していますか。漢字一字で書きなさい。（4 点）

【解答欄】

問四 傍線部⑤について、次の間に答えて下さい。

（1）傍線部⑥を現代語に訳しなさい。（10 点）

【解答欄】

（2）「親」が傍線部⑤のように嘆いたのはなぜだと考えられますか。書きなさい。（10 点）

【解答欄】

問五 傍線部⑥は、どのような行動を取ることですか。行動の理由とともに詳しく書きなさい。

（10 点）

【解答欄】

問題六 次の李白の詩「春夜洛城聞笛<sup>注1</sup>」を読んで、後の問い合わせに答えなさい。  
(合計 50 点)

誰 家 玉 笛 暗 飛 声  
散 入 春 風 满 洛 城  
此 夜 曲 中 聞 折 柳<sup>注2</sup>  
何 人 不 起 故 園 情

注 1 洛城……洛陽の町。

2 折柳……折楊柳といふ別離の時に奏する曲。

問一 押韻している字をすべて書き出しなさい。(5点)

【解答欄】

問二 承句について、次の問い合わせに答えなさい。

(1) 書き下し文を書きなさい。(10点)

【解答欄】

(2) 現代語訳を書きなさい。なお、必ず主語を書くこと。(10点)

【解答欄】

問三 結句について、次の問い合わせに答えなさい。

(1) 書き下し文を書きなさい。(10点)

【解答欄】

(2) 現代語訳を書きなさい。(10点)

【解答欄】

問四 中国の詩の形式の一つである近体詩が完成した時代はいつですか。漢字一字で書きなさい。

(5点)

【解答欄】